

JKSK 結結プロジェクトについて

JKSK 東日本大震災復興支援P～女性の活力を最大限活かした日本復興P 人)

- 1) 2011年3月11日(金) 14:46 東日本大震災発生
- 2) これは、単に東北の問題ではない。
日本全国、全ての人々が、力を、叡智を出し合って対峙しなければならない国家規模の問題であるという基本認識のもとで。
- 3) 首都圏の志の高い女性の皆さんと Meeting。(2011年5月23日)
- 4) 基本認識、基本姿勢を確認。
 - *女性が牽引力に
 - *東北の女性リーダー達(復旧、復興に対峙している)が主人公
 - *首都圏等の女性エキスパートたちは、東京目線を捨てて白紙で臨もう
 - *まず、被災地に身を置き、現状の認識と東北の女性リーダー達の話に耳を傾け、話し合い、その場で提案された取組みの事業化を。
 - *持続的、継続的な活動を、復興完成まで・・・。「東京目線ではなく、一緒に!」「スピード感、実行力、持続性を合言葉に!
- 5) JKSK 結結 P 発足
 - ①被災地(東北地区)で、必死で復旧・復興に対峙している人々の間の「結」
 - ②被災地(東北地区)と首都圏等の非被災地の人々との「結」を維持しながら、
- 6) 被災地における定期的な車座・交流会(1泊2日)の開催
 - 被災地の訪問
 - 被災地での取組みに耳を傾け、
 - 被災地における車座(ワークショップ)・交流会での意見交換
 - 被災地産の食事を賞味
 - 被災した旅館等に宿泊、

ワークショップ(車座になって討議、意見交換、提案)

- 第1回(2011 7.15～16) in 宮城県亶理郡亶理町 34人(被災地 16人)
- 第2回(2011 12.2～3) in 福島県いわき市 58人(被災地 21人)
- 第3回(2012 4.14～15) in 宮城県石巻市 53人(被災地 28人)
- 第4回(2012 10.19～20) in 宮城県南三陸町&大崎市 65人(37)
- 第5回(2013 4.12～13) in 宮城県気仙沼市&気仙沼大島 63人(37)
- 第6回(2013 12.20～21) in 福島県南相馬市 94人(56)
- 第7回(2014 5.30～31) in 宮城県仙台市 48人(32)
- 第8回(2015 7.10～12) in 福島県広野町 53人(32)

7) 東北の女性リーダー達と首都圏等の女性エキスパート達の強いネットワーク化 (目標 100人)(既に、300人以上)

自然再生、1次産業の再生、コミュニティビジネス等の個別プロジェクトに対し、首都圏等の女性エキスパート達が、伴走者として協力、多くの人々の参加を喚起しながら、資金調達、コミュニティビジネスの立ち上げ、マーケティング、政策提言等復興事業を進めるためのノウハウ、人脈などを提供していく。

8) 車座・交流会等で提案されたプロジェクトの事業化を(目標 20)

①東北のグランマのクリスマスオーナメントプロジェクト

(株)アバンティ代表取締役 渡邊智恵子さん

オーナメントの制作・販売促進協力・雇用創出。漁師の妻・母親など、津波被害により生計が立てられなくなった女性たちのビジネス創出を支援。株式会社アバンティとのクリスマスオーナメントの共同事業を通じて被災者の支援と女性のリーダー育成を図った。

②被災地における中小企業支援プロジェクト

NPO 法人環境会議所東北 専務理事山岡講子さん(ACCCJ)

NPO 法人環境会議所東北 専務理事の山岡講子氏が立ち上がり、仙台商工会議所および宮城県中小企業家同友会の協力を得て取り組んだ、被災地における中小企業支援プロジェクト。中小企業実態調査

の取材と併せて、多数の企業の参加を募り、2012年には、仙台市にて他企業とのマッチングの会合を設けた。

③宮城県亶理町いちご農家の被災、復興状況についてメッセージ発信 P

いちごオーナメント 亶理町ふらっとーほく 松島宏佑さん

④いわきオーガニックコットンプロジェクト

NPO 法人ザ・ピープル理事長 吉田恵美子 (地球環境基金)
女性農業家のリーダー育成と被災地の農業復活を支援。いわき市の NPO と提携して、食用農作物から衣服用の作物への農業シフトに関するビジネスモデルを構築。

⑤「3.11 小名浜地区追悼事業～世界が祈る

福島・いわきのために ふくしま・いわきで祈る世界のために～」

オーストラリア・アボリジニの女性 5 人、
国内のタイ、チベット、アイヌの方々を招聘、地元じゃんがら
念仏踊りと共に祈りをささげる

平成 24 年 3 月 11 日、東日本大震災から 1 年となるこの日、福島県いわき市において、被災者に対する追悼と、まちの復興が一日も早く成ることを『祈る』集いの場をもった。自然にもっとも近い生き方を守り続けるオーストラリアの先住民族アボリジニの『祈り』を小名浜の地で音楽・舞踊・美術というかたちで共有。また、ハワイ・チベット・アイヌといった世界各国の先住民族の『祈り』のパフォーマンスも併せて披露し、いわきのじゃんがら念仏踊りと共に、世界の祈りをこのふくしまの地で一つの力とした。

⑥「亶理町の防潮林再生グリーンベルトプロジェクト」

総務省・緑の分権改革・被災地復興モデル調査事業 (BCCJ)

「熱気球フェスタ」「わたりグリーンベルト P シンポジウム」開催
防潮林の再生を通じて亶理町のまちづくりを考える「わたりグリーンベルトプロジェクト」。町民 50 名が集い、5 回のワークショップを行って、防潮林を復興するためのマスタープランを作りあげました。南北 4 km、

東西 1km のエリアに、次の津波から人々を守る強い防潮林を創り上げます。また、これらの森創造事業には、町外からも多くの企業、一般ボランティアを動員し、グリーンツーリズムとして亶理町の新たな観光資源を創出している。2015 年 2 月には NPO 法人化、亶理町の町民 2 名が代表理事となり、活動を継続。

⑦「福島県いわき市・市民による再生可能エネルギーを活用した地域づくり」

(2011 年 12 月～) (総務省・緑の分権改革・被災地復興モデル調査事業)

いわき市内 3 つの NPO 法人

i) いわきオーガニックコットンプロジェクト (地球環境基金)

ii) いわきコミュニティ電力 P 島村守彦さん

いわき市民による再生可能エネルギーを活用した地域づくり

iii) いわき復興スタディツアー P 里見喜生さん

東日本大震災、原発事故により大きな被害を受けた福島県いわきだからできること、しなければならないこと。いわきの明日、持続可能な未来に向けて、3 つの NPO が中心となり「いわきおてんと SUN プロジェクト」を通じて復興まちづくりに取り組んでいる。地域住民 避難移住者、農家、事業者、地域づくり団体、NPO、首都圏企業、ボランティア、そして自治体など、様々な人々の輪をつなぎながら、①オーガニックコットン栽培および製品づくり、②いわきコミュニティ電力、(自然エネルギー)、③復興スタディツアーに取り組んでいる。

⑧「石巻市 子どもたちからの町づくり提言プロジェクト」

東日本大震災圏域創生 NPO センター 太田美智子さん (ACCJ)

被災地の女性リーダー、教育リーダーが共に被災地の子どもたちのケアにあたる中で、子どもたちと一緒に自分たちの住む街の未来復興ビジョンを描き、行政に提案するための提言書とジオラマを制作。2013 年 10 月 18 日には、市役所にて、子どもたちから石巻市長に手渡した。

⑨「石巻 ゆっくり邑こども王国プロジェクト」(三井物産環境基金)

東日本大震災圏域創生 NPO センター 太田美智子さん

石巻高校の避難所で7か月間、ともに生活した人々がつくった家族会。その後、各家庭が仮設・みなし仮設住宅・身寄り宅・自宅に分散しましたが、避難所で生まれた絆を保ちたいとの声が高まり、これに宮城県登米市東和町の人々が協調して、登米市相川の里山に新しい場を作る計画「かじか村子ども王国プロジェクト」をスタート。里山保全+震災避難所で生まれた絆の維持のプロジェクト。2014年9月には、「一般社団法人（非営利型）東北アイランド推進機構」を新たに立ち上げ、宮城県大崎市三本木の農家（1,700坪）を購入して、活動を継続中。

⑩東京新聞とJKSK 結結Pのコラボによる連載 “東北復興日記”
～コミュニティーの未来は東北に～復興の今、女性たちは・・・

第3回車座で出された「風化を防ぐためにメディアとの連携による継続的な情報発信を」という提案を受け、東京新聞と連携。連載を開始。2012年7月～東京新聞 毎週金曜日朝刊（現在火曜日）4面で連載
(2016.3 第177回)

2013年1月～1年間「河北新報」で連載を掲載
2014年10月～ ジャパン・フォー・サステナビリティにより海外配信

⑪「被災地と首都圏の女性による環境コミュニティビジネス・インキュベーション調査事業」(W-Bridge) (2012年7月～2013年6月)
車座・交流会（第4回、第5回）の実施、アンケート調査の実施、ワークショップ（車座・交流会）手法のマニュアル化、被災地女性リーダーと首都圏の専門家女性のネットワーク化（目標は累計で100人以上）、環境コミュニティビジネスのプロセスについて構築し報告書等にて公表する。これらにより復興を推進する地域主体の形成、被災地各地の地域資源を活用した環境コミュニティビジネス推進を行い復興に貢献する。

⑫いわき市地域活性P～「MUSUBU～さくらの森 夜の森P」
(フラッシュバック ジャパン)

東日本大震災の原発事故により警戒区域となっている福島県双葉郡富岡町にある桜の名所「夜の森」。富岡町出身の母親や親戚たちに“桜を見せたい”というMUSUBU代表の宮本英実氏の思いからスタートした。人がいなくなった町でも、変わらず咲き誇る桜は希望にも見え、この状況を多くの人に見てもらいたいく「写真展」として企画し、2012年8月から福島県内各所の仮設住宅や地域イベントに出展し、多くの方々に見て頂く機会を提供している。

⑬宮城県石巻市の小学校や地域のセンターに、クリスマスツリー25本と東北グランマのクリスマスオーナメント50セットのプレゼント

⑭「Share with FIAT クリスマスイベント」
(2012.11.18・2013.12.7～8) (FIAT 主催、JKSK 結結P 出展参加)

⑮「震災復興を支える人たちを結ぶフォーラム」
～スマトラ沖大震災と東北大震災～ (2013年8月6日)
(大和証券グループ、JKSK 共催)

⑯JKSK ボランティアBUS 運行による支援
(オーガニックコットン栽培プロジェクトに対する)
*2012年5月の連休後、東京をはじめ全国から応援に来ていたボランティアの数が激減する現象に対し、「東日本大震災復興支援活動の炎は燃やし続けねばならない」という強い思いの中で、小さな小さな一投かもしれないけど、1人でも多くの人に呼びかけボランティアBUSで福島へ、オーガニックコットンの畑で汗をかこう活動に参加し、社会へのメッセージを送り続けてきた。

*JKSK 結結P 車座がきっかけで誕生した「オーガニックコットン栽培P」の応援、
*震災と原発事故の風評被害に苦しむフクシマの農業に、オーガニック

コットン栽培で新風を吹き込み元気を取り戻すお手伝い
*行程 新宿駅(集合)～畑作業(広野町)～昼食(地元産)～畑作業(広野町)～いわき湯本温泉古滝屋入浴～新宿駅(解散)

(2013年)

- 第1回 2013年5月25日(土) ポット苗の定植
- 第2回 2013年6月22日(土) ポット苗の定植・捕植
- 第3回 2013年8月24日(土) 草取り
- 第4回 2013年9月28日(土) 草取り・収穫
- 第5回 2013年11月23日(土) 収穫祭

(2014年)

- 第1回 2014年6月1日(土) 種まき(直播き)
- 第2回 2014年7月12日(土) 草取り
- 第3回 2014年9月13日(土) 草取り
- 第4回 2014年11月8日(土) 収穫

(2015年)

- 第1回 2015年6月13日(土) ポット苗の定植
- 第2回 2015年9月12日(土) 草取り
- 第3回 2015年11月22日(日) 収穫祭

⑰「わたりグリーンプロジェクト」熱気球フェスティバル

2012年は、各地で復興に取り組む仲間達が集い、わたりグリーンベルトプロジェクトを事例に、市民主体の震災復興の具体的手法を考えるシンポジウムを開催。また、シンポジウムだけでなく、気球が互理の子供たちを乗せて空に舞い上がり、皆で互理と復興地すべての人たちの夢を描く熱気球イベントを実施。熱気球フェスは、2012年より恒例のイベントとなっている。

- ・2012年12月22日
- ・2013年10月19-20日

⑱JKSK 結結 P ステークホルダー・フォーラム (成果報告会)

日時: 2013年6月7日(金) 15:00～18:00～20:00 場所: CTW (表参道)

内容: ①主催者挨拶

②JKSK 結結 P 概要・経過説明

③各プロジェクトの発表(4プロジェクト)

情報発信「東北復興日記」
実行委員からのリレーメッセージ
応援団からのメッセージ
ワークショップ
写真撮影
懇親会(於 Bistro Le Man)

2年に渡って活動してきた「結結プロジェクト」の報告会。寄付金等のご提供や支援くださっている企業・団体、個人の皆さまに報告を行うと共に、今後についてディスカッションする機会を設けた。

⑲被災地におけるメンタルヘルス・プロジェクト

2013年10月～2015年12月 被災地14か所で開催参加者延べ530名

ストレスケア説明・講習会 (JKSK 結結 P 実行委員会ほか)
(2013年10月24日(木) 17:00～19:30 於 CTW)

1. 「つぼとんセラピー体験会」 in 気仙沼
2013年11月6日(水)～9日(土)
於 NPO 法人ネットワークオレンジ (気仙沼市)
2. 「つぼとんセラピー講習会」 in いわき市
2014年4月20日(日)～22日(火)
3. 「つぼとんセラピー体験会」 in いわき市
2014年4月26日(土)～27日(日)
4. 「つぼとんセラピー体験会・講習会」 in 南三陸
2014年10月18日(土)～19日(日)
5. 「つぼとんセラピー講習会」 in 登米市
2014年10月20日(月)
6. 「つぼとんセラピー講習会」 in 釜石市
2014年11月8日(土)～9日(日) & 11月10日(月)
(於 NPO 法人カリタス釜石)

被災された方のトラウマやストレスの緩和、また、支援者の心身の健康の維持、改善に役立てていただきたいと考え、欧米で元兵士の PTSD

の 解消や、ハイチ地震の犠牲者などに対して用いられている「つぼとんとんセラピー (EFT: Emotional Freedom Technique)」の講習会を開催。これまで講習会を開催した地域は、気仙沼、石巻、いわき、南三陸、釜石、仙台など、延べ530人の9割以上に効果が見られている。

2015年以降は、セラピストで構成されるハートサークル主催で活動継続。2016年2月より、一般社団法人ハートレジリエンス協会として活動。

⑩ 東北の美しい未来創造塾

仙台市、せんだい男女共同参画財団、NPO法人みやぎスマートアグリ、尚絅学院大学等と連携して実施。大学生、20～40代の女性や若者など約20名が参加し、復興の地域づくり・未来づくりの企画を立案する「東北の美しい未来創造塾」を開催。

第1期は約20人の女性が参加し、8つの復興・地域づくり等プロジェクトが誕生。第2期も講座は毎回20人前後が、フィールドワークは受講者等を含め各回約30人が参加し、6つの復興・地域づくり等の企画が発表された。

第1期 2013年11月16日～2014年3月1日

第2期 2014年10月2日～2015年1月22日

会場：仙台市男女共同参画推進センターエル・ソーラ仙台 大研修室

<第1期プログラム>

第1回 公開フォーラム “復興の地域づくり～今、そしてこれから

第2回 2013年11月27日(水) 18:30～20:30

「東北の未来づくりプロジェクトの立ち上げ方」

第3回 2014年1月8日(水) 18:30～20:30

「地域資源の発掘、ニーズの把握

第4回 2014年1月11日(土) 終日(大崎市) バスで日帰り

「フィールドワーク 蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト」

第5回 2014年1月22日(水) 18:30～20:30

「プロジェクトの企画」1

第6回 2014年2月1日(土) 終日(バスで日帰り)

「フィールドワーク いわきおてんとSUN」(いわき市)

第7回 2014年2月19日(水) 18:30～20:30 「プロジェクトの企画2」

第8回 2014年3月1日(土) 午後 「成果報告会」

<第2期プログラム>

第1回 10/2(木) 18:30～20:30

オリエンテーション、プロジェクトデザイン1

第2回 10/23(木) 18:30～20:30

インクルーシブ・リーダーシップ1、プロジェクトデザイン2

第3回 11/15(土) フィールドワーク 宮城県丸森町

第4回 11/20(木) 18:30～20:30

プロジェクトデザイン3、グループワーク1

第5回 11/27(木) 18:30～20:30

プロジェクトデザイン4、グループワーク2

第6回 1/17(土) フィールドワーク 福島県南相馬市

第7回 1/22(木) 18:30～20:30 成果発表会

講座を通じて立案したプロジェクトの企画発表

⑪ 「JKSK美しい未来創造塾・南相馬メンタルヘルス対策講座」

(2014年6月～2015年12月) 2013年12月に南相馬で開催した第6回車座・交流会を受け、「南相馬メンタルヘルス対策講座」を実施した。

- ・6月21日(土)：解決志向を学び、思考を整理し目標を明確にする技術を学ぶ(ストレスに関する基礎知識)
- ・7月19日(土)：チーム内のストレスを緩和し、やりたいこと、できることを整理する技法を学ぶ
- ・8月23日(土)：共感を得る発信の技法を学ぶ
- ・9月20日(土)：言語的説得技法(コミュニケーションストレスを緩和)
- ・12月20日(土)：メンタルヘルス対策実践の振り返り。各種技法の復習。

⑫ 国連防災世界会議パブリックフォーラムにて成果報告会

(2015年3月15日 16:00～18:00)

大震災と向き合うために・未来の地域づくり

人材育成ネットワークフォーラムにて
「JKSK 東北の美しい未来づくりをここから ～ 被災地と首都圏の
女性の交流による復興推進「結結プロジェクト」 報告と提案

会場： TKP ガーデンシティ仙台勾当台 3階 ホール3

②③ 国連防災会議関連企画 福島スタディツアー (2015年3月18日)

国連防災会議に参加される外国人を対象に、バスにて福島(南相馬、いわき等)に案内するスタディツアーをいわきおてんと SUN 企業組合の協力を得て実施。5か国38人が参加。

②④ 「広野わいわいプロジェクト」(復興庁・新しい東北先導モデル事業)

(2015年1月～2016年3月)

JKSKでは2013年からボランティアバスを運行し、広野町のオーガニックコットン畑を応援してきた。2015年は広野町で綿の栽培、町内に完成する防災緑地での植樹、町に賑わいを取り戻すパークフェスの開催、車座・交流会の開催を通じ、広野町への町民帰還が促進されるよう、地元住民やいわき市民、首都圏の団体が連携し「広野わいわいプロジェクト」を実施。第8回車座・交流会、3回のボランティアバス、商品開発ワークショップへの参加、アンケート調査への協力、防災緑地での植樹祭(3月6日)への参加など行った。

イオン(株)、東芝、FIAT Chrysler Automobiles ジャパン(株)、
(株)電通、(株)たちばな出版、(株)コスモピーアール、
(株)パナソニックグループ

サイボウズ(株)、福澤機械(株)、ACCJ、W-BRIDGE
One-Coin/ Every Day 活動協力者、JKSK 会員、関係者個人
その他(総務省、復興庁)

9) ご支援いただいた方々

JKSK-WE 基金活動支援フレンドリー企業